

「こどもカメラマン写真展」開催に寄せて

京都・大阪の中間に位置する枚方は、古くからの交通の要衝として開け、江戸時代には枚方宿が置かれました。枚方宿は東海道の宿駅であり、淀川の水上交通の中継地でもありました。また、周辺農村にとっては物資の集散地、遊興上の役割も果たし、現代枚方の都市化のルーツとなっています。本陣や問屋場のほか、旅籠や商家など多くの町家が軒を連ねて、街道や淀川を往来する人々で、宿場町は大層賑わいを見せていました。

現在においても、その町風景は時代とともに大きく様変わりしましたが昔ながらの街道筋の家並みや旧跡を訪ねることができる、魅力ある町として息づいています。多くの人々がそこで日常の生活を営み、市内のみならず市外からも大勢の人たちが訪れる町となっています。

今回の「こどもカメラマン写真展」は、子どもたちが実際に街道筋を自分の足で歩き、その枚方の魅力を自分なりの視点でカメラに収めて、多くの人たちに紹介してみようという趣旨で開催するものです。子どもたちの見た・感じた枚方宿周辺の魅力を再確認していただける契機となれば幸いです。そして、次世代を担う子どもたちが、枚方の歴史と文化に触れ、その魅力を感じ取るきっかけとなることを、心より願っております。

終わりに、年始めからの新型コロナ禍の影響だけでなく、連日の気温の高さによる熱中症の心配も重なり、応募期間中は外出することもままならない状況にあるにも関わらず、作品を応募して頂きました皆様方には心より御礼申し上げます。

令和2年9月吉日

市立枚方宿鍵屋資料館
館長 辻他 久雄